

「人類の芸術文化のルーツを観る」 ーインド・ミティラー画とワルリー画を中心にー 展

この度の第二段の「人類の芸術・文化のルーツを観る-インド・ミティラー画とワルリー画を中心に-」展では、第16回ナマステ・インド2008(9月27、28日、代々木公園、14万人)の「フォークアートの広場」に参加したインドのアーティストの作品もご紹介します。

インドの村落に伝わるフォークアートは、1970年代から世界的に知られるようになりました。ミティラー画やワルリー画は、その主たるものです。

ミティラー美術館(新潟県十日町市)は、88年以来、延べ100名近くに及ぶインドの描き手たちを招聘。14回も来日する人も出てきました。美術館に収蔵された他の描き手の作品から影響を受けたり、日本での滞在が刺激となり、新たなインドの創造的なフォークアートが生まれる制作の場となってきました。しかし、中越大地震で甚大な被害を被り、仮復興を続けながらナマステ・インド2008を開催したり、日印の文化交流を盛り上げる活動をしてまいりました。

この度の展覧会は関口美術館のご厚意により、復興に向けた第二段の展覧会として開催されます。

ー会期中の催しー

●公開制作

ナマステ・インド2008に参加したポーワ・デーヴィーさん、カルプリー・デーヴィーさんらが毎週土日、会場において公開制作する予定です。

ー会期中の催しー

■展示作品解説

- 11月3日(祝・土) 14:00~14:30 「ミティラー絵画とコスモロジー」 ミティラー美術館館長 長谷川時夫
11月9日(日) 14:00~14:30 「ワルリー画について」 ミティラー美術館学芸員 蓮沼ミヨ子
11月16日(日) 14:00~14:30 「ミティラー画について」 ミティラー美術館学芸員 蓮沼ミヨ子
11月23日(日) 14:00~14:30 「インド・フォークアートのコスモロジー」 ミティラー美術館館長 長谷川時夫
11月30日(日) 14:00~15:30 トーク「環境と芸術」 たばこと塩の博物館学芸部長 半田昌之
関口美術館館主 関口雄三
ミティラー美術館館長 長谷川時夫

温暖化や環境問題が地球規模で問題となると、芸術と環境は切り離せられないものになっていきます。今回展示されるアートは、自然との深いコミュニケーションの生活から生まれたアートです。これからの芸術がどのようにあるべきかという課題にも大きな示唆を与えるでしょう。(長谷川時夫)

■公開制作を行う作家の紹介

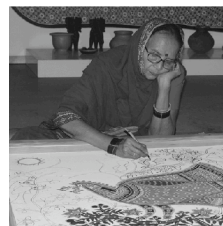
●ポーワ・デーヴィーさん Bauwa Devi



1942年生まれ。大胆な構図と明るい色彩を用いる彼女の作風は、現代アートとミティラー画との境界線を無くしてしまった。1986年世界の美術界に衝撃を与えたポンピドゥーセンターでの展覧会「地球の魔術師」に招待作家として招かれ制作している。

1992年以来、数次にわたって招聘され、福岡市博物館や埼玉県立近代美術館など、日本各地での展覧会で公開制作を行う。1986年ナショナル・アワード受賞。

●カルプリー・デーヴィーさん Karpoori Devi



1929年生まれ。インド国内でのミティラー展にインド政府手工芸局より数次にわたって派遣される。スジーニー(刺し子)作家としても知られている。自然彩色を使い、ミティラー地方の女性のもつ、伝統ある村の生活とたくましさや、やわらかさが絵に表現される。1981年ビハールステート・アワード受賞。また、1985年にスジーニーに対して織物大臣賞を受賞。1988年以来、数次にわたって招聘され、日本各地での展覧会で公開制作を行っている。



ミティラー美術館
948-0018 新潟県十日町市大池
Tel. 025-752-2396
ホームページ
<http://www.mithila-museum.com>

